

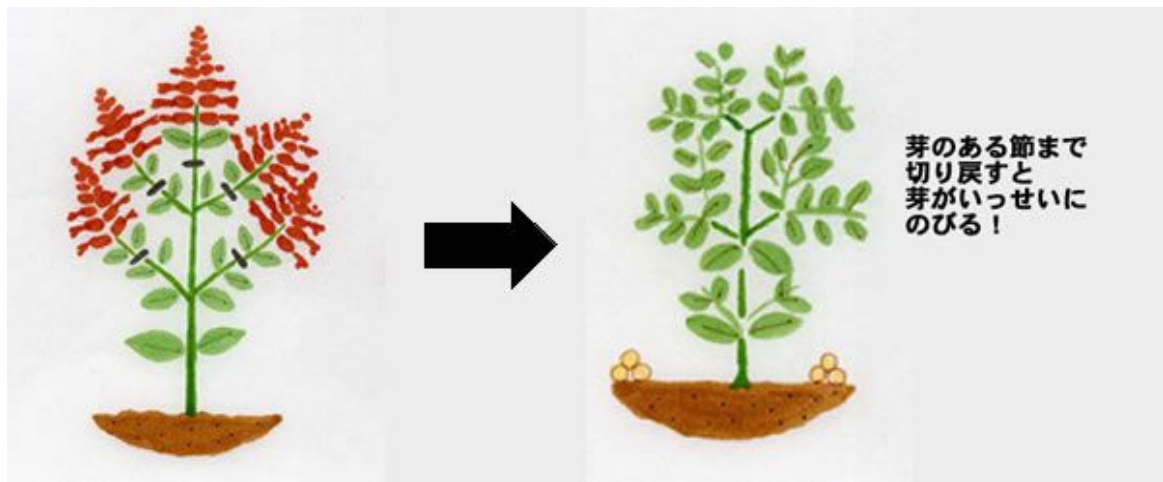
草花の切り戻し・パンジーの種まき・常緑広葉樹のさし木	
2004年8月	炎天がつづく時期
立秋を過ぎると朝夕は涼しくなり、秋の気配も感じられます。しかし、まだまだ炎天が続くこの時期、花がらを摘んだり、切り戻しを行ったりと草花を大切にケアすることが大切です。	
庭木の作業	常緑広葉樹の挿し木の適期バラの手入れを行う
草花の作業	ダリヤやサルビヤ、マリーゴールドなど、切り戻しと追肥を行う。この時期に、パンジーの種をまけば、11月頃から花が楽しめる。

草花の切り戻し

夏のはじめから咲き出したサルビアやマリーゴールドなどの草花。次々と咲き続けて草丈は高くなりますが、花数が少なくなり、暑さのために弱ってしまいます。そこで、夏の草花を元気に秋まで咲かせるために、枝を切り戻して、若枝を下の方から出し直してあげましょう。

切り戻しの方法は、元の方をよく確かめて、下方の葉脇から新芽が出かかっているところまできり戻します。枝数が少なくなると、寂しい印象になりますが、すぐに下の方から芽がのびてきて茂るので心配はありません。

しかし深く切りすぎて葉数を少なくしてしまうと、新芽を出す力が弱くなってしまいますので、高さは3分の1くらいを限度にするとよいでしょう。



パンジーの種まき

春の花壇をにぎわすパンジーは、秋まき1年草として育てる草花ですが、この時期に種子まきをすると、あたたかいところでは11月頃から花が咲き始めるので、早く楽しめます。種子まき方法は、浅い鉢にパーミキュライトを入れてならし、種子を均一にまいて土はかけずに新聞紙を。水はじょうろで与えると種子が流れ出るので、水はった洗面器に鉢を半分沈めて、鉢底から吸水させます。4～5日後に発芽したら、新聞紙をとりましょう。



発芽したら間引きをして、ポットにひと株ずつ移植する。

パーミキュライト	ひる石を高温で焼いた無菌状態の人工用土で、水はけ、水もち、通気性がよいのが特徴。土壌改良や、さし芽にむいている。
間引き	種子まきのあと、込み合っている株や枝、茎などを切り取ったり抜いたりして、空間をつくること。日当たりや通風をよくし、苗が健全に育つように行う作業。

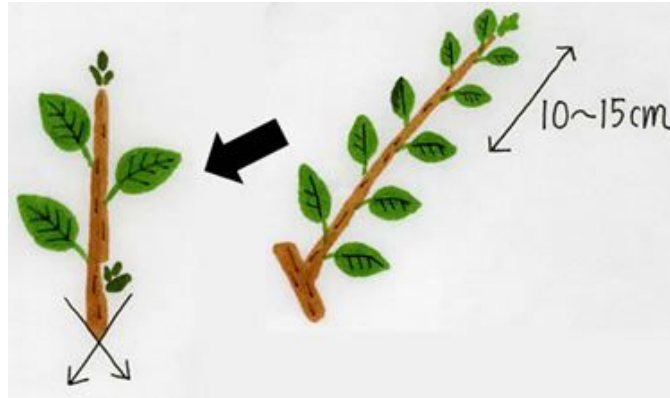
常緑広葉樹のさし木

ツバキ・サザンカ・ジンチョウゲなどの常緑広葉樹は7月～8月に挿し木をしましょう。さし穂には、今年のびた若い枝を選ぶこと。やわらかすぎず、適度な弾力のある部分を選ぶように。

葉先から10～15cmのところできり取り、基部をくさび形にナイフできり落とし、下半分の葉を落としたあと、2時間くらい水につけて水あげをします。

鉢に川砂か赤玉土、パーミキュライトなどを入れて、さし床をつくり、さし穂をさして根元をよく押さえましょう。さし床はあらかじめ湿らせておくこと。

また、しっかりと根付くまでは、半日陰で監理し、その後は日なたへと移動させます。



・赤玉土 あかだまつち

火山灰の下層土をふるい、大中小の粒に分けたもの。団粒土で通気性、排水性に富む、鉢花の基本用土。